

(社) 日本原子力学会  
第 91 回倫理委員会議事要旨

日 時 平成 28 年 5 月 12 日 (木) 13:30～17:30  
場 所 原子力学会 事務局会議室  
出席者 大場委員長、三村副委員長、宇奈手幹事、大鷹委員、金山委員、中野委員、  
中村委員、福家委員、宮越委員、宮澤委員  
上坂理事 (11 名：委員名簿順)  
作田氏、伊藤氏 (オブザーバー)

配布資料

資料91-1：第90回倫理委員会議事要旨(案)  
資料91-3：2016年春の年会企画セッション報告  
資料91-4：2016年秋の大会企画セッション関連資料  
資料91-5：再稼動に係る審査、承認の事例集に関する個別議事録  
資料91-6：入退会関連資料  
※資料番号91-2は欠番

議事

1. 資料 91-1 により、前回議事要旨 (案) を確認し、了承された。
2. 資料 91-3-1 及び-2 により 2016 年春の年会企画セッションの結果報告があった。当日のディスカッションでも話題となった“褒める”ことについて「褒める仕組みにおいて、失敗した時にチャレンジしたこと自体を褒めることができないか？」や「褒める人と褒められる人の関係性が重要。また、褒めて欲しいポイントを褒めることが大切。」など各委員から意見が出された。また、現在は技術者倫理を重点的に取り扱っているが、研究者倫理には技術者倫理と異なる視点があるので、今後考慮して行く必要があるとの意見もでた。
3. 資料 91-4 により 2016 年秋の大会企画セッションについて取り扱うテーマを協議した。講演者として久留米で開催されることも考慮しつつ、産業界、交通インフラ、大学、報道、役所などの候補が挙がった。この中から産業界と大学関係に絞り、個別に調整していくこととした。なお、今回は金山委員と出町委員が担当することとした。
4. 資料 91-5 により「国内原子力発電所の再稼働に係る審査、承認の事例集(案)」の一部として紹介の有った日本原子力発電敦賀発電所敷地内破砕帯の活動性評価に関する検討を行った。前回までの委員会で、当委員会として意見をまとめて発信することとしているが、関係者のどちらか一方のみの意見に偏ったものにならないようにする必要があることが再確認された。委員長と中村委員にて文書の案を作成することとした。
5. 資料91-6により伊藤氏の倫理委員立候補があり了承された。次回の理事会にて報告される予定。
6. 次回新旧合同理事会で使用される当委員会の活動報告と次年度への申し送り事項を紹介する資料案が提示され委員の了解を得た。また、学会全体で規則類の見直しを行っており、倫理規程や当委員会関係の規則も形式的な変更が必要となることの紹介があり、方向性については問題ないことが確認された。なお、倫理規程の変更に際しては過去の改定来歴をすべて記入することとした。
7. 京大准教授の対北制裁に関わる報道の紹介があった。

8. 北陸電力殿の安全文化・モラル教育に関する支援業務委託のH28年度契約内容の紹介があった。
9. 次回の倫理委員会は、H28年7月4日(月)13：30～(学会事務局会議室)とした。

以上